

9 習熟度別学習を進めるに当たっての全体構想を、どのように立てたらよいでしょうか。

1 習熟度のとらえ方

ある研究指定校の研究に、小学校3・4年の算数が解けない高校生の例が報告されています。ですから、学校によっては、小学校段階まで下がって、そのつまずきをとらえてゆく必要があります。次の図のように、小・中・高の関連のもとに、習熟度判定テスト問題を作成して、各生徒の習熟度をとらえるのも一つの方法でしょう。

テスト問題の系列化は、数学のように積み重ねの必要な教科ではある程度可能でしょうが、国語・社会などでは、教科の性格上むずかしい面があると思います。しかし、厳密なものでなくとも、系列化を図ることは、習熟度の低い生徒に対しては、どこでつまずき、それをどう指導するか、また、その生徒に何をどれぐらい教えるかの基準を知る手がかりの面で、必要だと思います。

もちろん、習熟度をとらえるには、一つの尺度では不十分ですから、教科・科目の成績とか、さらに、成績の根底になっている意欲・態度なども並行してとらえておきたいものです。一例を図で示せば、次の図3のとおりです。